

祝 卒業 77 期生

世界の舞台へ羽ばたけ77期生



校長 石川 一 仁

77期生の皆さんご卒業おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

皆さんが入学した3年前は、まだコロナ禍にあり、ちょうど第7波の入口に差し掛かった頃で、マスク着用や手指消毒など制限された生活を余儀なくされていました。

学校を挙げての行事である、文化祭、体育大会ともに外部からの来校者が入ることが出来ず、コロナウィルス感染症の影響が色濃く残った一年でした。

そんな感染症の影響も令和5年5月には、感染法上の位置付けが「5類」となり、ようやく日常が戻ってきました。

皆さんが中心となって企画運営した2年次の体育大会、そして、今年度2日間、3,000人を超える来校者を集めた文化祭、クラス劇やみな歌で躍動する皆さん、とても眩しく輝いて見え、コロナ禍で途切れかけた、倉高の伝統と文化のバトンを、次の世代へと確実に引き継いでくれたと感謝しています。

さて、現代社会は、ネットワーク社会の進展や、ITやナ

「語学力・コミュニケーション能力」

「主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感」

「異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ」

皆さんはここ倉高で、日々の授業や学校行事を通して、語学力やコミュニケーション能力、リーダーとしての責任感や使命感を身につけて、経済成長が著しく世界的に注目されているインドの高校生と1年以上にわたる国際交流を通じて、異文化理解を深めてきました。

私は皆さんに、倉高で培ったこれらの能力を発揮し、世界を舞台に大いに活躍するグローバルリーダーとなることを望んでいます。

昨年、私は教育交流の一環として2

度ほどインドを訪問する機会がありました。交流の中で、インドの方と最も親密になった瞬間がありました。それは共通語の英語での会話ではなく、その地域の言語であるヒンディー語で会話を交わしたときでした。

相手の方の文化・環境へ少しでも近づこうとするこちらの気持ちが通じたのか、交流が円滑になつていきました。

大切なのは相手の意見や文化や伝統を Respect（尊重）する姿勢があるのか、気持ちや立場に empathy（共感）する姿勢があるのかという点ではないでしょうか。

心が通じていくと、耳を傾けてくれるようになり、より信頼関係、深い絆を築くことが出来るのです。

皆さんには是非この「Respect」と「empathy」の気持ちを忘れず、未来を切り開くリーダーとして活躍して欲しいと願っています。

77期生の皆さん、いよいよお別れです。ここ愛宕丘の思い出を胸に、洋々たる前途へ大きく羽ばたいていって下さい。巣立っていく皆さんの輝かしい未来に想いを馳せながら、今後の活躍を祈念し、贈る言葉とします。



〔237号〕

令和7年3月1日発行

福岡県立小倉高等学校

新聞部

写真提供：写真部

北九州市小倉北区

愛宕二丁目8-1

印刷

株式会社福田印刷

祝

卒業！

77期生